

令和元年度文化庁「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」

山梨の遺跡発掘展 2020

令和2年3月14日（土）～4月12日（日）

（3月16・23・30日・4月6日は休館）

開館時間 午前9時～午後5時

山梨県立考古博物館 企画展示室

（入場は午後4時30分まで）

発行 山梨県埋蔵文化財センター

主催：山梨県埋蔵文化財センター 共催：山梨県立考古博物館

協力：甲府市教育委員会、山梨市教育委員会、韮崎市教育委員会、南アルプス市教育委員会

北杜市教育委員会、甲斐市教育委員会、甲州市教育委員会、（公財）山梨文化財研究所

甲信縄文文化発信・活性化協議会

（順不同）

はじめに

令和元年度に山梨県埋蔵文化財センターや各市町村教育委員会等が県内各地で実施した最新の発掘調査成果を一同に集めて展示しています。発掘調査によって新たに明らかになった山梨の歴史情報や、迫力ある出土品の数々を公開し、県内外へ情報発信していく機会です。

なお、今回は前年度に引き続き日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」に関連する縄文土器やパネルも展示しています。今年度の遺跡発掘展をぜひ、お楽しみください。

I 最新情報 山梨県埋蔵文化財センター

ばばだいらいせき

馬場平遺跡

馬場平遺跡は、多摩川の源流である柳沢川左岸の河岸段丘上の平坦面、標高約1,256mに立地しています。また青梅街道とも重複する地点であり、山梨と東京を結ぶ重要な地域と言えます。発掘調査によって水晶集中区、土坑、ピット合わせて48基、屋外土器埋設遺構1基が発見され、出土品はコンテナ14箱分になりました。

水晶集中区（長さ約3m、幅約1.5m）からは、水晶片が500点以上出土しました。このほか包含層等から、黒曜石が28点（製品は4点）出土しています。馬場平遺跡は水晶の量が圧倒的に多いです。発見された土器は、縄文時代早期や前期と思われるものがありますが多くは中期の土器です。

まだ整理作業中のためはっきりとした結論が出ていませんが、馬場平遺跡はキャンプ地のような性格をもつ水晶の加工場で、集中区は捨て場であったと推測しています。今後、整理作業を進めて遺跡の性格に迫っていきたいと思います。



馬場平遺跡俯瞰

しんまちまえいせき
新町前遺跡

新町前遺跡は、市川三郷町市川大門地内にある平安時代から中世（約600年～1,100年）の遺跡です。

調査は、平成30年度より峡南地域単位制・総合制高校（県立青洲高校）建設予定地内で実施しました。

本年度は、平安時代末から中世の住居跡約7軒、土坑等50基からなる集落跡や、中世の石積みを伴う大きな畦畔で区画された水田や畑を調査しました。

その結果、新町前遺跡がさらに西側へ広がっている大きな遺跡であることがわかりました。

今回の調査では、何度も水害を受けながらも家を建て、田畑を耕し、市川の地で連綿と生活してきた人々の歴史や当時の農業土木技術の一部を成果として得ることができました。



新町前遺跡 1区カマド内遺物出土状況

きたばたみなみいせき
北畑南遺跡

新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事に伴う北畑南遺跡の発掘調査を、令和元年11月18日～2年3月27日（予定）にかけて実施しています。遺跡は、笛吹市石和町東油川地内にあり、試掘調査によって新たに発見されました。平等川（笛吹川）左岸の氾濫原にあたり、地表下4.0mに第1面（中世）、地表下5.0mに第2面（古墳時代）の複数の生活面を確認しました。中世の遺構面からは、道跡に伴うと想定できる溝状遺構が見つかりました。油川氏館跡推定地に近く、中世「油川荘」の一端を示すと考えられます。また、古墳時代の生活面からは、古墳時代中期（今から1500年前）を中心とした集落跡が見つかり、住居跡から土器が大量に出土しています。甲府盆地の低地にも、遺跡が良好に保存されている事を示す、貴重な事例となりました。



中世の遺構検出状況



古墳時代の住居跡出土土器



試掘調査の風景

県内遺跡分布調査

山梨県埋蔵文化財センターでは、掘削を伴う開発工事で破壊されてしまう恐れがある遺跡を保護するため、事前に遺跡の有無や工事による影響などを調査する試掘・確認調査を行っています。

また、狭い範囲や遺跡がある可能性の低い場所では、工事に立ち会って遺構や遺跡の記録をとります。

今年度は、合計13件の試掘・立会調査を実施し、出土した遺物の一部を展示しています。